

C-8 きょうだい関係に関する実態調査(第1報) 家庭環境と愛情関係について

昭和廿大家政 ○浮須婦紗 熊沢幸子

目的 遺伝的素因・環境を類似する親子・きょうだい関係が女子学生の心身の成長・意識にどのような影響を及ぼしているかを考察するために実態調査を行った。

方法 昭和53年4月から5月にかけて、本学学生及び千葉県内の短大生、合わせて896名を調査対象として調査用紙を配布した。

結果 家族構成は4人家族が47%で、そのうち核家族が90%を占めた。

- ・家族人員が増加するに従って、祖父母の同居家族が増加する。
- ・同居家族のなかでは、父方の祖父母との同居が75%で、そのうち長男との同居が80%。
- ・子供の世代では、2人きょうだい55%、3人が30%を占める。
- ・親の世代では、父、母共に4〜7人きょうだい70%を占める。
- ・気の合うきょうだいが多く、気が合わないと答えたものはごく少数である。兄弟姉妹の間に顕著な差はない。
- ・きょうだい間の刺激や影響の有無については、あると答えた者は60%を占め、全くないと答えた者も30%見られた。
- ・きょうだい関係は仲間関係と意識している者が70%、主従関係と意識している者が15%。
- ・現在のきょうだい関係の満足度は、満足している者が65%、不満と答えた者は28%みられた。